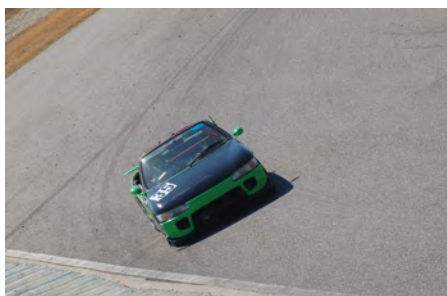


「アツき戦いの開幕」



2012年以来の優勝で好スタート！ #100



こちらも実力派チーム #35



祝！新規格初表彰台 #10



序盤のタイヤ交換が悔やまれる #28



しぶとい走りが身上 #444

昨年の最終戦から4か月、サーキットに咆哮が帰ってきた。K耐久東海シリーズ2014年の開幕だ。おなじみとなったスパ西浦モーターパークには、開幕戦を待ちきれない22チームが参加、新たなシーズンの激闘が幕を開ける。前日の風も収まったコースは春の日差しが降り注ぎ、チャレンジャーたちを迎える。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

東北 NA660 選手権車両への門戸が開かれた以外は、小変更にとどまったレギュレーションの変更だが、KNN クラスにおいて新規格車両のシェアは確実に増えてきた。KNN における新規格車の主役は HA23V 型のアルトバン、これを昨年までの主役であるビートが迎え撃つ。昨年王者のガレージイシヤマは他クラスへ転出、となると有力チームの HAC チームと JK レーシングがシリーズの主導権を握るか。開幕戦は 2 台のヴィヴィオが参加、こちらも注目。

■予選

予選トップを獲得したのは昨年シリーズ 3 位の #35「JK レーシングユーロビート」1' 09.214。横に並ぶのは昨年ランキング 2 位の #100「HAC もらいものビート」が 1' 10.090。やはりこの 2 チームが有力か。予選 3 番手は #10「FASTOUT アルト」が 1' 11.895、4 番手は #444「TeamYKSR アルト」1' 12.675 で新規格車が続く。その次はヴィヴィオが 2 台、予選 5 番手、#28「ヴィヴィオメロン」1' 12.837、6 番手 #29「ブラストヴィヴィオ」が 1' 13.161、ともに昨年最終戦で初参加だったが、今回の予選ではしっかりとタイムアップ。予選 7 番手は #2「まだ初心者マーク外せないアルト」が 1' 19.610 で予選通過、決勝の中でタイムアップを狙う。

■序盤

序盤のステイントでトップを行くのは #35「JK レーシングユーロビート」、それを #100「HAC もらいものビート」が追走。戦前の予想通り、まずは 2 台のビートが首位争い。3 番手は #444「TeamYKSR アルト」、4 番手 #10「FASTOUT アルト」、5 番手 #2「まだ初心者マーク外せないアルト」と新規格車が並ぶ。そして 6 番手 #29「ブラストヴィヴィオ」、7 番手 #28「ヴィヴィオメロン」は緊急のタイヤ交換を敢行。

■中盤

中盤のステイントでトップに立ったのは #100「HAC もらいものビート」、2011 年以來のタイトル奪還に燃える。しかしながら #35「JK レーシングユーロビート」も負けじと追走。ともにシリーズ黎明期から参戦し、幾度となくバトルを繰り返してきた両チームの実力は高く開幕戦から白熱したレース運びで頭ふたつ抜けた争いか。

中団グループでは新旧の規格車が好勝負。一回少ないピット回数に加え熟成されてきたマシンポテンシャルの新規格車か、軽量の旧規格車か・・・さらに今回出場のヴィヴィオの場合 4 輪ストラットという贅沢な足回りを持ち、すぐれたコーナリング性でタイムを稼ぐか・・・各チームの戦略が見て取れる。

最後尾の #29「ブラストヴィヴィオ」こそペースに乗れてないようだが、あとの 4 台はほぼ同一ペース、#2 も初心者マークはとれてきたか。

Race Report

■終盤

ゴールまで残り1時間、この時点でのトップは#100「HAC もらいものビート」94Lap。それを追うのは#35「JKレーシングユーロビート」90Lap、3番手は#28「ヴィヴィオメロン」85Lap、4番手#10「FASTOUT アルト」も85Lap、5番手#444「TeamYKSR アルト」82Lap、6番手#2「まだ初心者マーク外せないアルト」と#29「ブラストヴィヴィオ」が77Lapで続く。どうやら優勝は上位2台に絞られてきたようだ、#35「JKレーシングユーロビート」がどこまで詰めれるか。

■最終結果

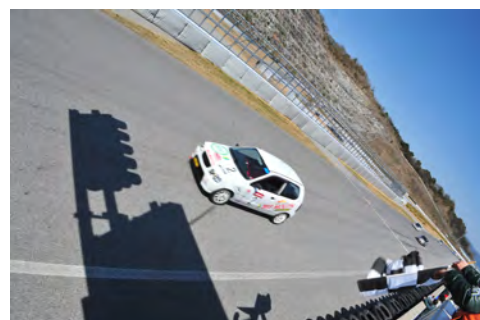
見事今年の開幕戦を制したのは、#100「HAC もらいものビート」。王座奪還へ幸先の良いスタート。2位には#35「JKレーシングユーロビート」が入り、こちらも栄えある初代チャンピオンの実力を見せつける格好。3位には新規格車の#10「FASTOUT アルト」が、同一Lapの#28「ヴィヴィオメロン」を振り切り、表彰台の一角を占めた。惜しい#28「ヴィヴィオメロン」は4位。5位#444「TeamYKSR アルト」、6位#29「ブラストヴィヴィオ」、途中スピンなどもあった#2「まだ初心者マーク外せないアルト」だが7位で初完走、全車完走というリザルト。

■総評

昨年のチャンピオンチームや新規格車を引っ張ってきたチームが、他クラスに転出した今シーズンは、ある意味チャンスにあふれたKNNクラス、戦前の予想では2強が独走かとも思われたが、終わってみれば順位こそ2強だが、新規格車が初めて3位に食い込み新たな時代の予感も感じさせた。開幕戦には東北レギュレーション車の参加がなかったが、次戦以降の参加が期待される。



ビストロはかわいく速い #29



無事完走で脱初心者！！ #2



さすがの力を見せつけた



オイルまでいただき！





三つ巴の戦いを制し見事開幕戦優勝 #60



昨シーズンの王者は2位発進 #25



昨年の雪辱を果たせるか！ #60



手堅い走りで4位 #41

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

昨年はわずか1P差、最終戦でのそれも逆転でタイトルが決まるという激戦だったこのクラス。今シーズンもネコマル2、S.C.C.V(ヴィスコンティ)、明智自動車といったトップコンテNDERが開幕戦に集結した。また、今シーズンから参加が認められた東北NA660選手権車両は、#51の「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」が出場、その走りに注目だ。

■予選

予選トップはトップの#66「IMWTウディ」1'07.390、昨年1P差で涙をのんだS.C.C.V(ヴィスコンティ)チームが意地の予選1位。予選2位は#60「明智自動車スペシャルトウディ」1'07.640、こちらも実力のあるチーム。予選3位は昨年の王者#25「アカミネコマル2トウディ」1'07.875とここまですが07秒台に入れさすの力を見せつける。

予選4位はスポイラーとバンパーの一部以外は白い#41「まっかなバラード夢見るトウディ」1'08.997で続き、東北レギュレーション車の#51「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」は1'10.160で予選5位。そして最後尾に初参戦の#17の「Ken'z CRAFT エッセ」が1'22.659で決勝進出。

■序盤

序盤まずトップに行くのは#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#41「まっかなバラード夢見るトウディ」、#66「IMWTウディ」が続く。4番手は#51「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」、5番手は#17の「Ken'z CRAFT エッセ」、早々にピットインをした#25「アカミネコマル2トウディ」は、一旦6番手に順位を下げる展開。

■中盤

中盤のスティントではトップは変わらず#60「明智自動車スペシャルトウディ」だが、#25「アカミネコマル2トウディ」は同一Lapに並びいつでもイける体制に。そして3番手は#66「IMWTウディ」、このあたりはシリーズの常連であり、耐久レースの走り方を熟知した有力チームが占める。それに食らいつくのは#41「まっかなバラード夢見るトウディ」。注目の東北レギュレーション車の#51「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」は5番手を走行、とびぬけた速さはないものの3回ピットのハンディを活かして上位進出を狙う。

もう一台の新規格車#17の「Ken'z CRAFT エッセ」はドライバーの経験不足からくるものなのかピット時のホワイトラインカットが頻発、さらにそのペナルティ不履行で1周減算という裁定を受けてしまう。レースにおけるルール・レギュレーションはまず最初に理解することであり、今後気を付けてほしい。

■終盤

終盤になっても上位3チームは激しいつばぜり合いを見せる。ピットインの関係で#41「まっかなバラード夢見るトウディ」が一時トップに立つも、勝利の行方は#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#66「IMWTウディ」、#25「アカミネコマル2トウディ」に絞られたようだ。

第2グループでは#41「まっかなバラード夢見るトウディ」と#51「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」が争う。序盤ペナルティなどがあった#17の「Ken'z CRAFT エッセ」も中盤以降は安定した走行で完走を目指している。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

見事今シーズンの開幕戦を制したのは#60「明智自動車スペシャルトウディ」、2位に2Lapの差をつけてトップチェッカーを受けた。2位には#25「アカミネノマル2トウディ」、3位に#66「IMWTウディ」が入り有力チームが表彰台に上った。

4位には表彰台までは2Lapに迫った#41「まっかなバラード夢見るトウディ」、5位には同一Lapで東北レギュレーション車の#51「川晋工芸&キヤドカーズエッセ」。6位#17の「Ken'z CRAFT エッセ」もしっかりと完走

■総評

今シーズンから参加が許された東北レギュレーション車は1台の参加だった。レース中の最速Lapこそ09秒台だが、手堅い信頼性とピットハンディで表彰台までは2Lapとまずまずの戦闘力を示した。今後マシンのスピードが上がってくれば、更なるポジションアップも見込める。

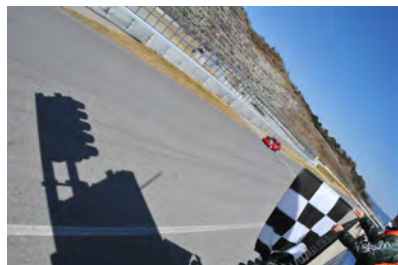
また、開幕戦には姿を見せなかった有力チームもあり、次戦以降の戦いがよりヒートアップするに違いない。



初参加の東北レギュレーション車！ #51



これからの主役となるかエッセ #17



これまたオイルを Get !





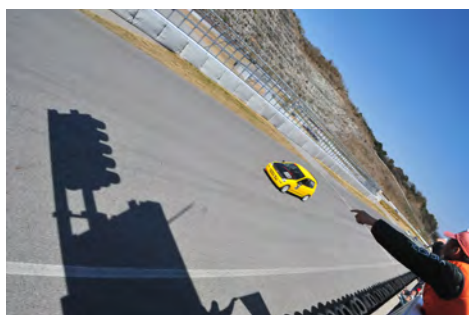
総合チェッカーはお見事！ #38



KNO にガチャピンが帰ってきた #284



ニューマシンの出来に興味津々



完成度は高いぞ

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

このクラスも最終戦で逆転タイトルが決まった激戦クラス。今季の開幕戦のエントリーは2台と少々さびしいがその分アツいバトルに期待したい。

■予選

予選トップは、昨年王者の#38「デモリッションエグゼトウディ」がマシンを新規作成。同じトウディでカラーも黄色ながら、後期型をベースにすべてを一から見直したといわれるほど手が入っている。その初陣となるこの予選では、1'05.371を記録し見事クラストップタイム。一方それに対抗するのは、昨年KNNの#284「JKレーシングユーロトウディ」が改造クラスに帰ってきて一騎打ち。予選は満足に走れなかったようでタイムは1'17.612と伸びなかったが、決勝での巻き返しを狙う。

■序盤

序盤から快調に飛ばす#38「デモリッションエグゼトウディ」は総合でも上位につけ周回を重ねる。#284「JKレーシングユーロトウディ」も決勝ではまずまずのペース、離されずについていきたいところ。

■中盤

中盤のステントでも#38「デモリッションエグゼトウディ」が快走、総合2番手で順調そのものといった様子。#284「JKレーシングユーロトウディ」もここが踏ん張りどころと総合トップ10圏内で粘りの走行。

■終盤

最終ステントに入っても#38「デモリッションエグゼトウディ」が独走。#284「JKレーシングユーロトウディ」の5Lapほどの差をつけている。

■最終結果

#38「デモリッションエグゼトウディ」は2時間半過ぎに総合首位に立つと、なんとそのまま総合優勝。ニューマシンの初陣を嬉しい嬉しい総合チェッカーのおまけつきで飾った。#284「JKレーシングユーロトウディ」も総合9位に入る健闘。

■総評

速さで優るターボクラスを抑えての総合優勝は快挙の一言、レースラップも05秒台前半と#38「デモリッションエグゼトウディ」の完成度は高い。このチームを脅かす好敵手の登場はあるか。





祝！2年ぶりの優勝！！ #112



ニューマシンでチーム初表彰台の2位 #717



貴重なポイント獲得 #93



HA22S ワークスを持ち込んだ

KTCクラス（軽過給機のクロードクラス）

昨年2勝をあげてシリーズチャンピオンに輝いた#392「Zammers ヴィヴィオ」(MRTm)が開幕戦を欠場。2年連続で開幕戦を制した”開幕野郎”がいないのはさびしい。一方、昨年はKNNで戦った#717「Team Jatsun」が新規格アルトワークスを仕立ててKNCに参入、新たな挑戦をすることとなった。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'07.373、昨年の最終戦に続き予選の1番手は渡さない。2番手に#112「白須賀会カプチーノ」1'07.411とこのクラスを得意としているチームが実力を示す。

注目の#717「Team Jatsun アルト」の予選タイムは1'09.167で、上位陣とは少し差があるようだが、これだけではニューマシンのポテンシャルを図ることは難しい。まずは、決勝の中でタイムアップを狙っていこうという戦略か。

■序盤

序盤からダッシュをかけるのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、昨年は2勝をあげながら、無得点レースも2回と速さがうまくかみ合わなかった。今年こそはとの意気込みが伝わる。2番手走行は#112「白須賀会カプチーノ」、昨年の最高位は2位ながらシリーズ3位に食い込んだこちらも強豪。このチームも今年こそは表彰台の頂点とシリーズタイトルを狙いたい。3番手を行くのが#717「Team Jatsun アルト」、上位2台とはスピード差はあるようだが、離れずについていきたいところ。

■中盤

レース半ばを迎えてトップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、それを#112「白須賀会カプチーノ」と#717「Team Jatsun アルト」が追う展開は変わらず。ただしその差はそれほど大きなものではなく、トップから3位まで3Lapほど。かなりの混戦模様と言えそうだ。こういう展開のレースで怖いのはトラブルの類、各チームとも気を引き締めていきたい。

■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップを行くのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」94Lap、2番手は#112「白須賀会カプチーノ」92Lap、3番手#717「Team Jatsun アルト」91Lapと、順位こそスタート時点とかわらないもののかなりの接戦。こうなるとどのチームにも勝利のチャンスが訪れる。特にしぶとく走る#717「Team Jatsun アルト」はレース中の最速タイムこそ08秒台にとどまるが、ピットハンディを活用すると周回数を稼いでいるようだ。このクラスでは新参者だが、さすがはKNNでもまれてきたことと、新規格車の走らせ方は一日の長があるかもしれない。

Race Report

■最終結果

レース終盤までトップを走ってきた#93「藤枝マリンダイビングアルト」だったが、最終盤にトラブルで後退、勝利を逃してしまう。かわって開幕戦に勝利したのは#112「白須賀会カプチーノ」、2012年の第3戦以来の嬉しい優勝！

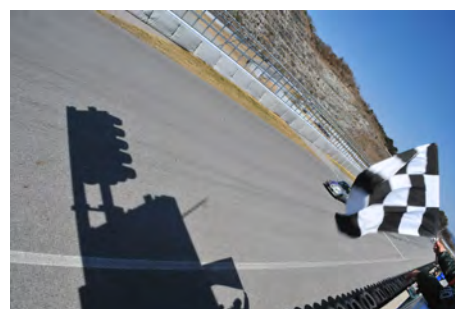
2位は#717「Team Jatsun アルト」、クラスチェンジの初レースで見事表彰台を獲得。チームとしても初の表彰台だ。

3位は惜しかった、#93「藤枝マリンダイビングアルト」。しかし完走でしっかりポイントは獲得した。昨年の0点レースの苦い思い出もあるだけに、ポイント獲得の重さはよくわかっていることだろう。



■総評

昨年と比べて少々さびしい台数となったこのクラスだが、本来は様々な駆動方式とエンジン形式が入り乱れて争うバラエティに富んだクラス。新旧規格車の争いもあり、ストリートチューニングの延長で楽しめるターボ(およびS/C)車でのレースは楽しい。#717「Team Jatsun アルト」の新規格ワークスなどはマシンの熟成が進めばかなり面白い存在になりそう。そのほかにはラパンやKeiなどスズキのターボ、さらには昨年もシリーズを沸かせてくれたコペンなど・・・次戦以降新たな参加マシン・チームが参加してくれることを願う。





さあ、今シーズンも開幕だ！



濃密バトルを制し1年ぶりの美酒 #32



連続タイトルに向け2位発進 #777



あれ～ 1位がない！？

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

昨年は2チームの一騎打ちとなったこのクラス。その最終戦はシリーズタイトルを決めた#777「ナルミファクトリーアルト1号車」がセーフティカーラン中にマシントラブルという事態が起こったこともあり、初参加の新規格マシン「KCテクニカアルトバンターボ」が優勝。

さて今年の注目は強豪チームの#14「ガレージイシヤマ」が帰ってきた。KNN、KNCなどでタイトルを獲得してきたこのチームだが、KNOではシリーズ2位が最高位、いよいよ今年はKTOのタイトル獲りを狙ってきた。他の強豪チームとのバトルが見もの。

■予選

予選トップは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が1'03.269。昨年の王者が賞録の総合PP。その横には注目の#14「ガレージイシヤマTTSアルト」1'04.856が付けて、早くもフロントロー対決。予選3番手はこちらも強豪で2012年のチャンピオン#210「ZESTルブロスアルト」1'05.054。予選4番手は、こちらも復活した#32「爆走あばれ馬ミニカ」が1'05.304。昨年の開幕戦以来の勝利を狙う。

■序盤

序盤から#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が総合トップで周回を重ねる、これは昨年の最終戦と同じ。#210「ZESTルブロスアルト」、#32「爆走あばれ馬ミニカ」が2番手争い。#14「ガレージイシヤマTTSアルト」はニューマシンのためか、スピードは見せるも周回数的には4番手。

■中盤

1時間半ほど経過した頃、他クラスのスピンアウトからセーフティカーランとなる。思わず昨年最終戦の悪夢がよぎるが、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」はそれを振り払いトップをキープ。2位には猛追してきた#32「爆走あばれ馬ミニカ」がぴったりとマーク。3位#210「ZESTルブロスアルト」、4位#14「ガレージイシヤマTTSアルト」の構図。

■終盤

終盤でトップ交代劇、#32「爆走あばれ馬ミニカ」が96Lapで久々のトップ快走。昨年の開幕戦以来の栄冠に近づく。2番手は#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が2Lap差、ここは無理をしない作戦か。

3番手は3位#210「ZESTルブロスアルト」93Lap、4番手#14「ガレージイシヤマTTSアルト」はトラブルを抱えながらも完走へと持ち込みたい。



代わりに勝利者インタビュー 2位だけど・・・

Race Report

■最終結果

今シーズンの開幕戦を制したのは#32「爆走あばれ馬ミニカ」、昨年の開幕戦以来1年ぶりの勝利の味をかみしめた。2位は堂Lapで#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、レース中のファーストラップを記録するなど相変わらずの章駈天ぶり。まずは2位発進で連続タイトルに挑む。

3位表彰台は#210「ZEST ルブロスアルト」、こちらも約1年ぶりの表彰台。4位は#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」、レース中の最速ラップは03秒台で全体の2番手という速さを見せたが、マイナートラブルもありこの結果。しかしながら「まずまずの速さでした」とチーム関係者が語るように、次戦以降の熟成に期待。

■総評

開幕戦から同一Lapのトップ争いが展開されたこのクラス。実力派チーム同士の見ごたえのあるバトルだった。これに加え次戦以降は「KCテクニカアルトバンターボ」の再登場や新たなマシンの参戦が予定されるなど面白い展開が期待されている。

※なお、昨年のレポートのなかで、新規格車の総合初優勝がアルトバンターボとありましたが、正確には2012年のミニカターボでした。お詫びして訂正いたします。(元記事訂正済)



1年ぶりの表彰台 #210



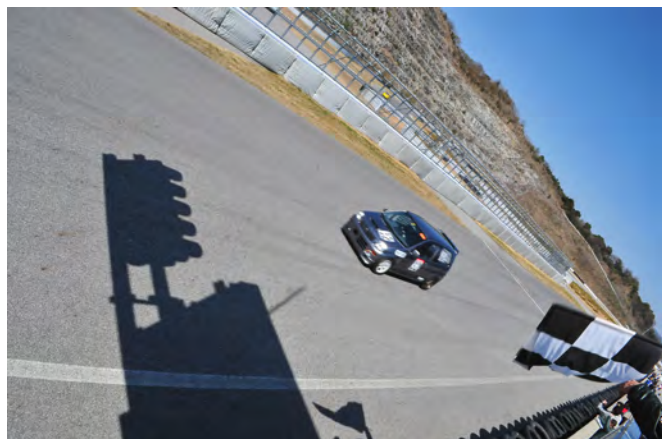
しっかりとオイルもいただき！



表彰式遅刻しました～(^_^メ)！
が、勝者は私たちです！(^・ω・^)キリッ



クラス復帰早々予選から速さは見せた #14



新規格車を引っ張る#32



完走したことで今後の熟成に期待